

2021年3月5日 全5頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2021/3/5号）

個社データ・業界統計・POSデータで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 山口 茜  
研究員 和田 恵

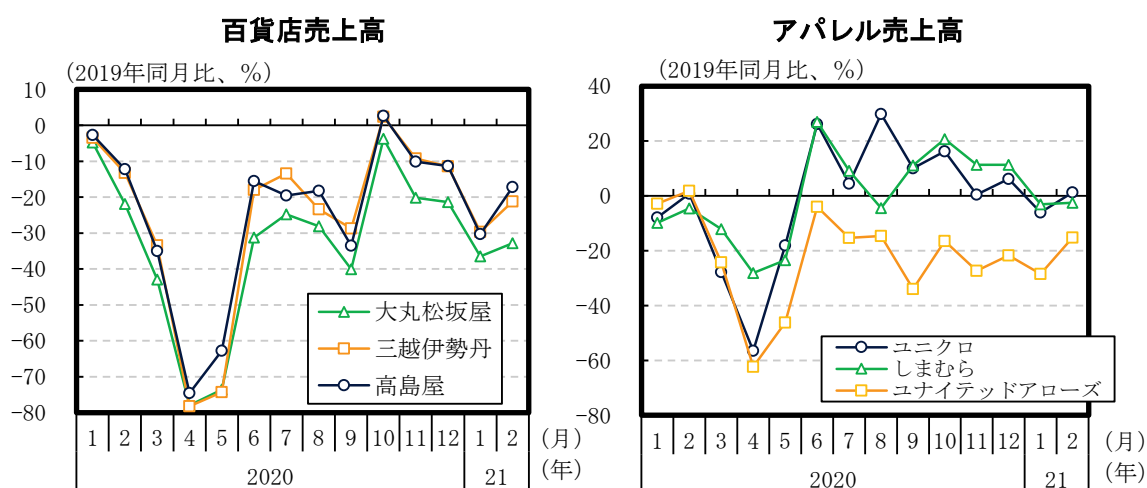
## [要約]

- 2月の消費は1月と同程度だったとみられる。緊急事態宣言が継続する中で、財・サービスともに前月から概ね横ばいで推移した。
- 【小売関連】2月の大手家電量販店の売上高は前月比▲1%程度、スーパーは同▲3%程度、ホームセンターは同▲3%程度といずれも減少した。また、2月の新車販売台数は同▲6%程度であった。一方、大手百貨店の売上高伸び率は新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同月比で2~3割減程度と、1月からマイナス幅が小幅に縮小した。アパレル各社の売上高伸び率も前月から小幅に上昇した。
- 【サービス関連】2月の新幹線輸送量は、2019年同月比で6~7割減程度と1月から横ばいだった。旅客機輸送量は、減便率を踏まえると1月から同マイナス幅が小幅に拡大したと見込まれる。外食・旅行・娯楽関連消費と連動している小売店・娯楽施設の入出は宣言再発出を受けて大きく落ち込んだあと、2月以降は徐々に回復しているものの、引き続き低水準にある。今後公表される2月の宿泊者数、外食売上でも1月に続き大幅な前年割れが見込まれる。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の2月の既存店売上高伸び率は前年の新型コロナウイルス感染拡大の影響を除くため、2019年同月比で見ると2~3割減程度と1月（同3割減程度）からマイナス幅が小幅に縮小。宝飾品などの高額商品販売が好調。
- ◆【アパレル】2月の既存店売上高伸び率（2019年同月比）はユニクロとしまむらが1月と同程度。ユナイテッドアローズは同2割減程度とマイナス幅が縮小。春物販売が好調。

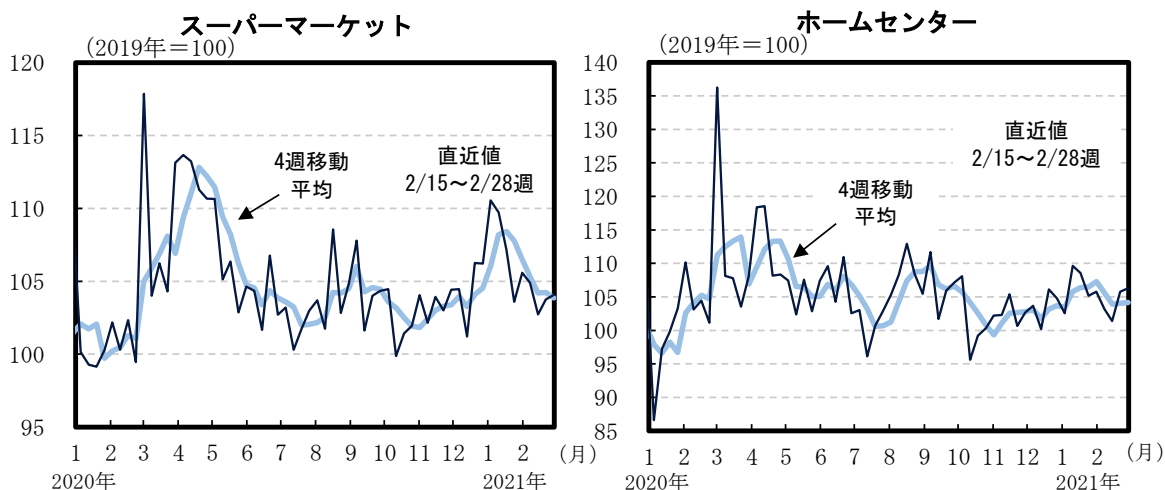
図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2021年1月以降の大丸松坂屋と三越伊勢丹は大和総研による試算値。  
 (注2) アパレル：既存店ベース。大和総研による試算値。  
 ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。  
 しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。  
 (出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】2月の売上高は前月比▲3%程度。（大和総研による季節調整値）。  
主力の食品売上高も同▲3%程度。
- ◆【ホームセンター】2月の売上高は前月比▲3%程度（大和総研による季節調整値）。  
雑貨、ヘルスケアなどの幅広い品目で売上が減少。

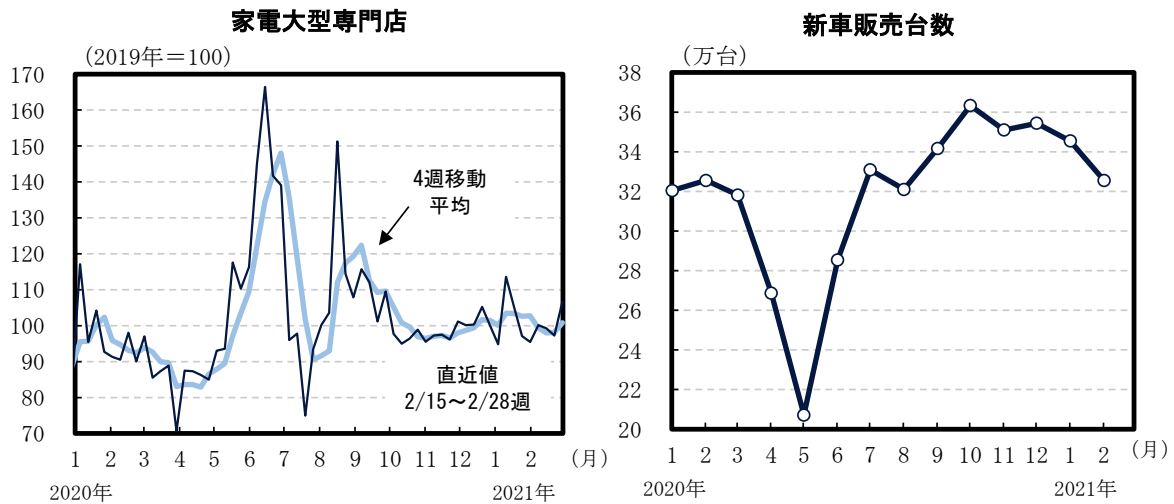
図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高



(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。  
 (出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】2月の大手家電量販店の売上高は前月比▲1%程度（大和総研による季節調整値）。エアコンやテレビの販売が振るわなかった。
- ◆【自動車】2月の新車販売台数は1月から2万台減少し、前月比▲6%程度（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

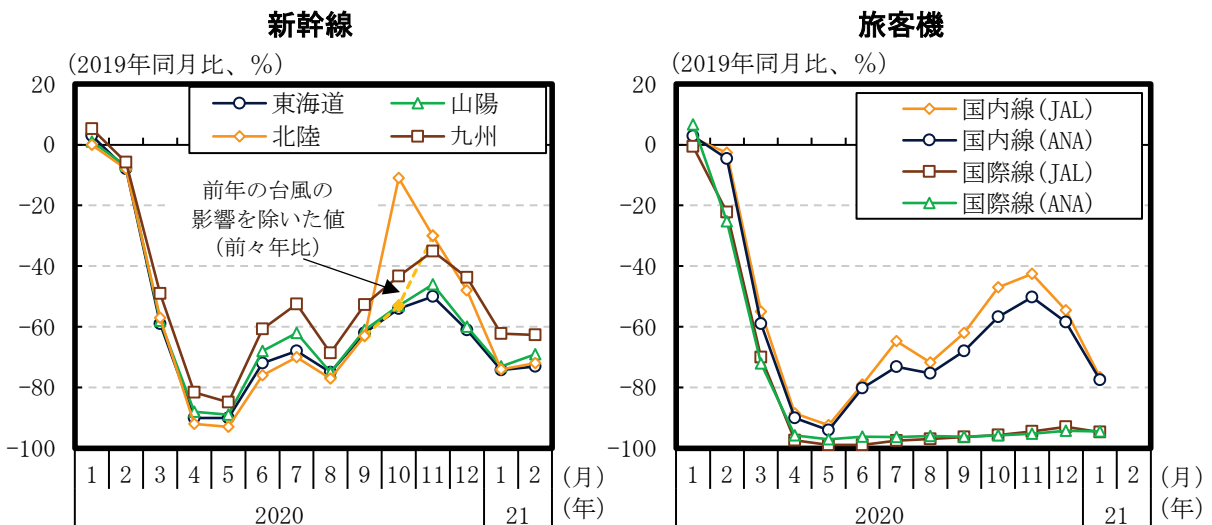
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】2月の輸送量は、2019年同月比6~7割減程度と1月から横ばい。
- ◆【旅客機】1月の輸送量は、国内線は2019年同月比8割減程度とマイナス幅が12月から大幅に拡大。国際線は同95%減程度と変化なし。2月の減便率は国内線が1月より上昇、国際線は横ばいであったことから、2月の輸送量はマイナス幅がさらに拡大すると見込む。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



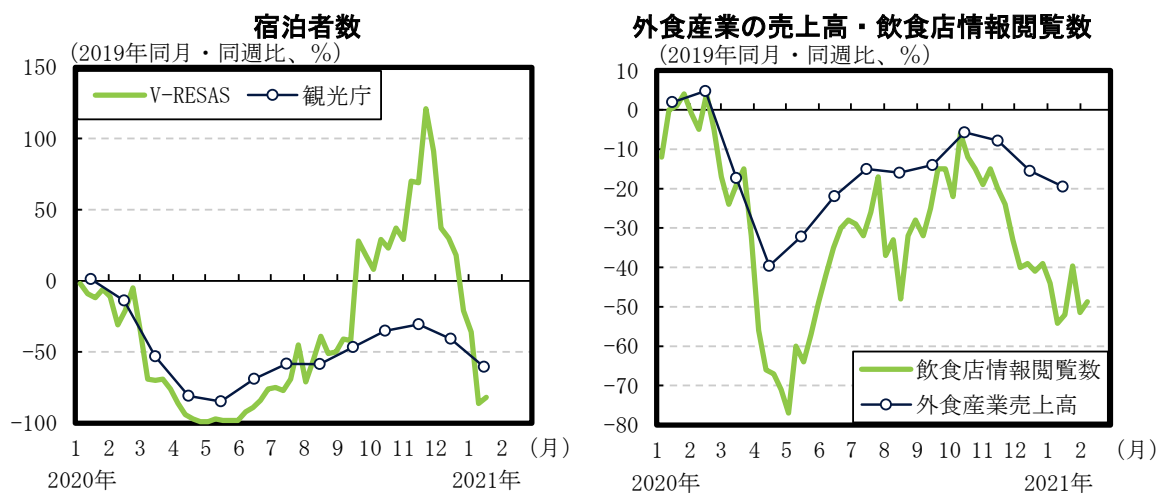
(注1) 新幹線の2021年2月の九州は23日まで、東海は24日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】1月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比6割減程度とマイナス幅が拡大。感染拡大を受けた年始の帰省等の自粛や緊急事態宣言の再発出が重石に。また、2月も宣言の延長により大幅なマイナスを見込む。
- ◆【外食】1月上伸伸び率は2019年同月比2割減程度と12月からマイナス幅が小幅に拡大。宣言再発出により、営業時間が20時まで制限されたことが重石に。V-RESAS等のデータに基づくと、2月は宣言の延長により大幅なマイナスを見込む。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・客数



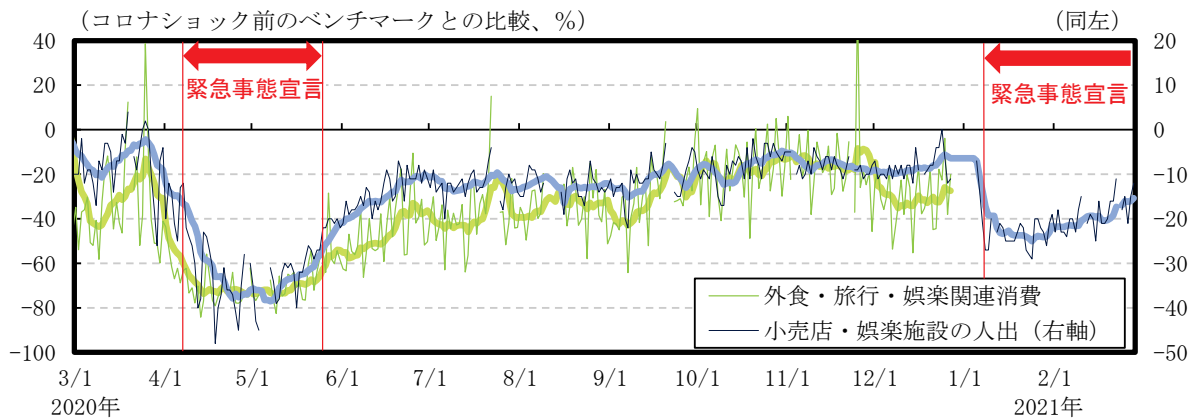
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

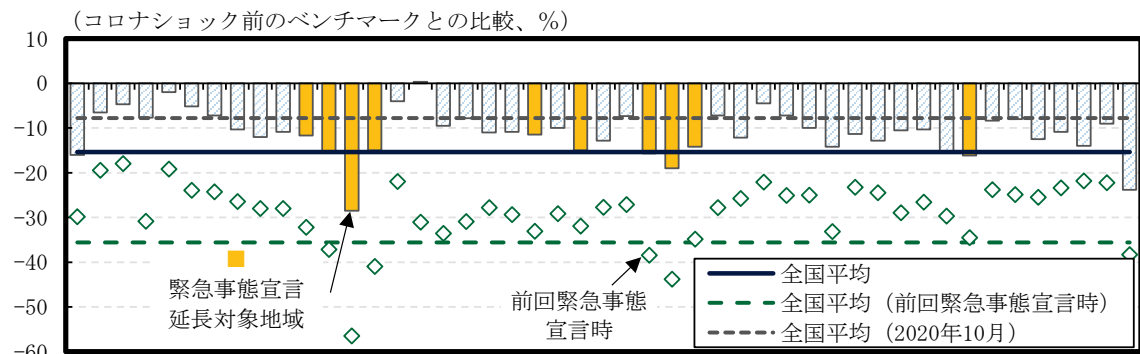
<参考：人出・高速道路交通量>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。  
 月～金曜日の祝日とお盆(2020/8/10～14)、年末年始(2020/12/28～2021/1/4)のデータは除いている。  
 (出所) 総務省統計、Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

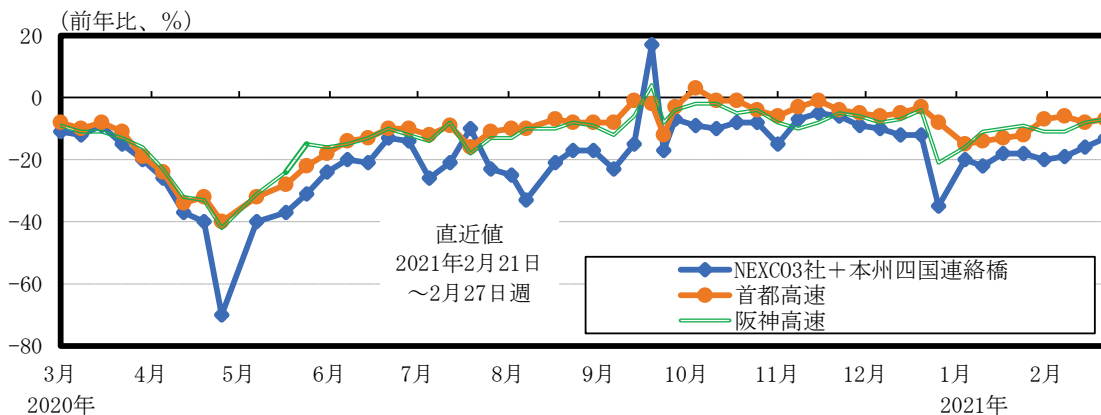
図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出 (2/22～28 平均、都道府県別)



北青岩宮秋山福茨栃群埼玉千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖  
 海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄  
 道 川 山 島

(注1) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。前回緊急事態宣言時は対象が全国の期間の平均。  
 (注2) 2021年2月23日を除く。  
 (出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 7：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。  
 (出所) 国土交通省より大和総研作成